

を考えて、体育館の空調が付くまでは違う場所を案内するような工夫をする必要があると思うが、いかがか。

小柳総務課長：西柴中学校は、残念ながらまだ空調が設置されていないというのが実情である。学校施設は教育委員会が所管にはなるが、区としても例えば個別にサーキュレーターを持参したり、学校で体育館にスポットクーラーが用意してあればそれを使わせてもらっている。西柴中にはそういうものがあり用意をしたが、いずれにしても暑い時期に体育館で一夜を過ごしていただくのは申し訳ないことでもあるので、できることから学校に働きかけていきたいと考えている。

高橋議員：私も西柴中にいたが、本当に暑かった。

もう一つの課題は、来る人達は着の身着のまま来ると思うが、避難所には食べ物も飲み物も何も無いことをちゃんと伝えてほしい。食べ物や飲み物を準備しろとまでは言わないが、何もないということをやちゃんと伝えて避難するように言わないと、大雨の中を避難して、さらに食べ物を取りに行ったら大変だなと思う。これは意見としてお伝えする。

次に、先日、第6分団の県の総合大会に応援に行った。2位という立派な成績であり本当におめでたいと思う。またそれにあわせて、消防からもいろいろ支援をしていただいたと聞いている。ありがとうございます。

次に、六浦地区のスポーツ広場について、六浦南小学校の道を挟んだところがあり、そこを管理運営している会長から、広場ができてから多分30年ぐらい経過しており、今までは年間にもらえる施設の管理費で十分に補って補修をしてきたが、鉄柱やネットなどがかなり古くなっており、今の運営資金の中で修繕はなかなか難しいと相談があった。その辺についてはいかがか。

米山地域振興課長：六浦スポーツ広場は、開設から35年が経過し、非常に大きい広場。運営委員会や地域の方々と区役所で状況をチェックした。これまでも、穴の開いているフェンスは、小破修繕等で直してきたが、大規模なところは、業者の見立ても含めて大規模な修繕になるということだった。広場の土地は教育委員会の所管であり関係局もいくつかある。教育委員会を窓口として、どのように修繕に取りかかるかを区も入って調整している。

高橋議員：対応をよろしくお願ひしたい。

次に、子どもたちのプログラミングとか、ポジティブエイジングのいろいろな支援の関係で、8月30日から9月1日に市役所1階のアトリウムでeスポーツの大会が開催され、その実行委員を担った。企業対抗で「ぷよぷよ」をやり、市役所からも1チーム出場したが1回戦で敗退しておりレベルが高い人たちが集まっていた。これまで、私はあまりゲームを子どもに勧めず、むしろ逆の対応をしてきたが、最近、横浜市大の宮崎智之先生という医師が、文科省から補助金をもらってSNSとかネットの世界を利用して、困難を抱える若者たちを救い出そうと活動をされている。本当に今までの自分と発想が逆であり驚いている。こういったことに積極的に取り組んでほしい。先日、福井県の鯖江市に視察に行ったが、鯖江は子どものプログラミングが20年前から進んでいて、海外の企業がお金を出してくれるくらい認められている。この分野はこれからますます伸びる良い取組だと思った。高齢者の方々のデイサービス等のいろいろなプログラムの中で、ゲームが認知症予防にもなると思っており、そういったものを推進していただきたい。

富岡高齢・障害支援課長：本市では、にぎわいスポーツ文化局が賑わいの創出を目的としてeスポーツ支援を進めている。高齢者の日中活動通い場などで電子機器を用いて体験する会などが始められている。eスポーツそのものが、幅広い世代の方の交流の場が広がるとか、にぎわいが生まれるとか、活用が期待されると考えているが、認知症の予防にどのような効果があるのか検証が進められており、その成果を大いに期待して待っている。引き続き動向を注視しながら情報収集を図っていきたい。

高橋議員：何年も言い続けてきているが、金沢警察署と区役所の前の泥亀第3歩道橋の撤去について要望していた。本当に早く撤去すべきだがどうなっているか。

黒羽根土木事務所副所長：金沢警察署の前の泥亀第3歩道橋については、令和元年度から、管理者である横浜国道事務所に対して撤去の要望を継続して行っていたが、今年の5月になって、令和6年10月中旬には撤去工事を行うという旨の連絡があった。歩道橋の一部に横浜市が管理する部分

があり、横浜国道事務所と連携し、歩道橋全ての撤去を行っていく予定。

高橋議員： やっと念願叶って嬉しく思う。

次に、先週の日曜日、どたばた子育て応援隊という劇団のプリンセスソフイーというミュージカルを観劇して、金沢区の人たちの市民力の高さを痛感した。区役所も関わって支援していたと思うが、そういった市民で頑張っている人たちを、ぜひ、引き続き応援する区になってほしいと思う。これは意見としてお伝えする。

竹野内議員： 金沢まつり花火大会について、去年に引き続いて素晴らしい天候に恵まれて無事に開催できたこと、多くの区民の皆様から「感動した。素晴らしかった。」と感想もいただいた。無事故の運営など、休日返上で、総出でサポートにあたった区役所職員の皆様に改めて感謝を申し上げる。区長はこの金沢まつりは初めての体験だったのではないかと思うが、区長の所感と今回どれくらいの皆様が鑑賞に訪れたかを伺いたい。

齋藤区長： 金沢まつり花火大会は、区長としては初めてだった。警報が出た週のちょうど真ん中で開催でき、主催者発表で 25 万 5,000 人が訪れ、本当に地元の大事なまつりだと思っている。私は、30 年ほど前に 2～3 回来たが、その頃よりも規模が大きく、人が砂浜を埋めつくすぐらいに増えていて本当に驚いた。今回、協賛金の御協力をお願いした際に、本当にこれだけは毎年続けてほしい、これだけではなくしてほしいという御声援をたくさんいただいた。今回は 50 回目ということで「御祝儀として今年はずむよ」とおっしゃっていただいた社長さんもいた。本当に地元で愛されている、大事にされているイベントだと実感したところである。当日、花火をあまり見ることができずに募金箱を首から下げて声を上げてくださった地域の皆さんや、大学生の方からも御協力いただき、関わってくれた全ての方に心から感謝したい。これからも多くの方が来て、楽しんでいただける花火大会を目指していきたい。

竹野内議員： 区長からも話があった資金調達について、今回初めてクラウドファンディングも行ったが、その成果や結果はどうだったのか。また、来年以降も継続して開催ができるように、区役所も全面的に支援をお願いしたいと思うがいかがか。

齋藤区長：クラウドファンディングは初めての試みだったが、7月17日から40日間、花火大会の翌日まで行った。目標額100万円に対して延べ260人の方から合計165万円の御支援をいただいた。やってみないとなんとも言えないというところから始めたが、本当に広く御支援をいただいたと思っている。最近の物価高騰、人件費高騰など、継続するにはお金が無いと難しい。今回を踏まえて、来年度もぜひやっていきたいと思っている。

竹野内議員：小柴自然公園のインクルーシブ遊具広場の暑さ対策について伺いたい。昨年9月の開園以来、平日週末を問わず多くの子どもたちが利用しているが、日陰や休憩場所が無い。特にこの夏の暑さ対策をしっかりと行って欲しいと今までもこの場でも申し上げてきた。これまでの対応と今後の予定について伺いたい。

木村区政推進課長： 広場を利用する方が少しでも過ごしやすくなるように、隣接地に、7月12日から9月末まで試行的にミストシャワーが設置された。毎日10時から17時の間で運用している。また第二期エリアの開園に合わせて旧第二ポンプ室棟を改修し、クールスポットとして屋内の休憩施設も確保していく予定と聞いている。今後も利用者の声を参考に、ミストの試行結果等をしっかりと確認し、より効果的な対策に取り組んでいくように局に働きかけていく。

竹野内議員：ミストとかしっかり対応していただいた。この暑さもしばらく続くし、しっかりと定着して皆さんが快適に過ごせるように引き続きやっていただきたい。

次に、地域福祉保健推進に関して、説明の中でも中学生向け補助教材ワークシートを4校で実施したとの報告があったが、中学生の受けとめや反応はどうだったか。

平福祉保健課長：中学生の皆さんからは、地域への理解が深まった、自分たちが大切な存在として支えてもらっているということが分かった、といった前向きな意見が多数聞かれた。これからは困っている人がいたら声をかける、積極的にボランティアに参加することを実行していきたい、といった意見も出されている。実際に地域のイベント等に参加してお手伝いを

した生徒もいた。

竹野内議員：素晴らしい成果だ。私も、富岡東中学校で開催されたタウンミーティングに参加して、中学生と大地震が起こった際の地域活動を巡って意見交換をした。地域のために自分たちのできることをしっかりやりたいと中学生が前向きな意欲を持っていることに感銘を受けた。地域の防災福祉を子どもたちに関心を持ってもらえるように、こうした地道な取組を大切に進めていただきたい。

次に、ガイドボランティアについて、区社協に窓口を委託して行っている障害のある方の外出の際の付添い支援事業について、障害者の方々より謝金の低さや担い手不足を長年指摘されている。今年度から、1回の謝金をこれまでの500円から1,000円に倍増する対応を行っていただいた。その効果とガイドボランティアの登録及び利用状況の推移について伺いたい。

富岡高齢・障害支援課長：金沢区のガイドボランティア登録及び利用状況は、令和4年度は登録者73人、利用回数1,747回。令和5年度は登録者66人、利用回数1,228回。令和6年度は7月末現在で登録者61人、利用回数が419回となっている。今年4月に引き上げられた奨励金の影響を医療情報センターに確認したが、変更して間もないことから顕著な変化はまだ感じられないということだった。医療情報センターは、ボランティア養成講座の開催、研修会、障害のあるの方々にも交流会の取組を充実させることで、地域に根ざしたボランティアの発掘育成に取り組んでいく。区役所もチラシの配架や事業の周知などの協力をしていきたいと考えている。

竹野内議員：サービスを必要とされる方々に着実に利用していただけるよう、障害のある方々またボランティアの担い手となる方々双方に事業がしっかりと周知されるように引き続きの取組をお願いする。

次に、金沢八景駅の駐輪問題について、金沢八景駅の高架下のロータリーの歩道上の駐輪について多くの皆様から指摘をいただいている。特に京急線各駅では、違法駐輪を警戒して頻繁に巡回や整備を行っていると思うが、区で把握している金沢八景駅高架下のロータリーの歩道の実際の状況はどうなっているか。

米山地域振興課長：金沢八景駅周辺は自転車等放置禁止区域になっている。ロータリー周辺、国道 16 号を渡ったシーサイドラインの高架下等の一部、一部線路の西側及び高架をくぐったところも禁止区域になっている。禁止区域の令和 5 年度放置禁止札の貼付け等の啓発活動は、年間 209 回行っており、1 回につき平均 45.8 台、平日よりも休日、朝よりも夕方に放置自転車が多いという傾向があった。また金沢八景駅の高架下のロータリーの歩道付近が主な場所だった。また、道路局で実施している実態調査では 38 台の放置自転車があり、その内 32 台がロータリー周辺ということだった。令和 5 年度に金沢八景駅周辺の放置禁止区域内の保管場所から移動した自転車の台数は、年間 48 回作業を行い一作業日当たり 16 台だった。

竹野内議員：高架下の歩道は広いので、自転車が停めてあって歩きにくいという指摘ではなく、むしろ整然とルールを守って止められるように、例えば近所への買い物等の短時間の一時利用のための駐輪スペースを設けてはどうかという意見もあるが、見解を伺いたい。

木村区政推進課長：金沢八景駅周辺の駐輪場は、平潟湾沿いにある金沢八景駅自転車駐輪場に現在空きがあり、金沢八景駅北側の P I A 金沢八景店自転車駐輪場にも 900 台の駐輪場スペースがあるため、一時利用として必要な駐輪場の台数は確保されていると認識している。御提案の場所は、歩行者が非常に多い場所でもあり、仮に駐輪スペースを設けた場合、これを利用するために進入する自転車と歩行者の導線が錯綜するという課題があり、公共空間の効果的な利用と安全な利用という観点から慎重な検討が必要と受けとめている。

竹野内議員：なかなか難しいと思うが、近所にそれだけ空いているなら、というところもある。買い物に来る人や御高齢の方も多く、近くに停めたいというところもあると思うので、推移を見ながら様々な検討をしていただきたい。

次に、区庁舎での窓口サービス向上に関連して、今年も 6 月に我が団として、市内各種団体の皆様との政策懇談会を実施した。その中で、ろうあ者の団体の皆様から横浜市全体への要望として、各区役所の窓口へ手話通訳を配置していただきたいという御要望があった。これはもう以前からい

ただいている要望だが、金沢区役所における手話通訳あるいは筆談を必要とするろうあ者の方々への対応、頻度は実際どれくらいあるのか伺いたい。

木村区政推進課長:令和5年度は、手話通訳タブレットを利用して3件の対応があった。今年度のタブレット利用は、本日時点で無いという状況。また手話通訳に限らず筆談で話をされる方もいる。筆談ボードを利用した案内は、1階の総合案内窓口で月に数件程度発生しているという状況である。

竹野内議員:そのタブレット端末で手話通訳さんをつないで対応していることはその団体の方も承知しているが、通信の問題だとか、タブレットの画面の大きさとか、見にくいというお話も伺っている。実際対応していただいた状況、利用者の方の感想などをどのように受けとめているか。

木村区政推進課長:このタブレットは区役所に1台配布されており、窓口で、御利用になる方に、貸出している。利用実績は、令和5年度は3回となっている。窓口では特別な御用意がなくても筆談ですぐに本題に入り、これで済むケースが非常に多い。タブレットの利用は少ないが、知っていれば使ったという方がいないよう、適切に案内していく必要があると考えている。

坂井議員:10ページと18ページの話だが、金沢区版の地域防災拠点開設キットはどうなったのか。作成されたのか。

小柳総務課長:区役所が地域防災拠点の方々の御意見を伺いながら作成した。

坂井議員:一緒に作って、こうやったらうまくいくよねっていうことをやったということか。

小柳総務課長:はい。

坂井議員:参加人数について気になった。例えば6ページから高舟台小学

校 47 人とか。(子どもと保護者の) 両方で 48 人とか、この辺の人数は、多いのか、少ないのか、もっと呼びたいのか。

木村区政推進課長:より幅広い方に体験機会を創出していきたいと考えている。前回の区づくり推進市議員会議の場でも、もっと広く考えるようにという話をいただいております、小学校の募集であったり、働きかけの工夫であったり、あるいは一般公募も含めた募集方法などについても検討していきたい。対象をよりもっと広くしていきたいと考えている。

坂井議員: (LINKA I 横浜金沢推進事業で) 能見台小学校 5 年生 31 人とあるが、能見台小学校に行ってちょっと人を集めてほしいとお願いしたのだと思うが。

木村区政推進課長:こちらのスクールファクトリーは、校長会でこういう企画があるという話をさせていただいたが、なかなか手が上がらないという状況があり、こちらから御案内させていただきながら実施に漕ぎつけた。

坂井議員: こういうことを言ったのは、日々のこともやらないといけない中ですごく大変だと思うが、区役所は広報みたいなものが苦手なのかな、人との繋がりを結ぶのが難しいのかなという気がする。ここを押せばここから出てくるという思考が多いと思う。広がりが悪い気がするので、もう少し工夫してやっていただけたらと思う。その最たるものが居住促進プロモーション事業。(掲出が) 10 月ごろということはもうできているのか。

木村区政推進課長: 印刷物などの広報媒体ということであれば、今その調整をやっており、版下を確認したりしている。

坂井議員: どのようなプロモーションするのか教えてほしい。

木村区政推進課長: 今回は、実際に金沢区内に居住していただくというところを最終的な目標として、ターゲットをしっかりと絞った形で広報しているかと思っている。具体的には、現在または近い将来、転居を検討している 20 代から 30 代の夫婦やカップルをメインターゲットとして、金沢区

の自然が多く、家族で暮らしやすいイメージを訴求していきたいと考えデザインイメージをまとめている。

坂井議員：子育てできますよ、こんなにきれいな街ですよ、という感じか。例えば、何かお金が出るとか、何かが出るとかという話ではないのか。

木村区政推進課長：金沢区全体の魅力も含め、横浜市政全体の部分も絡んでくるが、子育て策にも触れながら、訴求していくものとなっている。

坂井議員：楽しみにしている。人口を増やすということが非常に重要であろうかなと思う。特に金沢区は横浜市の中でも一番人口が減っているのので、どうにか住む人を増やすこと、もちろん20代30代の人達を増やさなければいけないし、その人たちが金沢区で働くのか、大学生が工業団地で働いてくれば良いなどは思うが、そういうことも含めてやらなければいけないだろうと思っている。そういう決定権がないという事もあるが、やっぱりそういう形でムーブメントを起こして行って、人がいっぱい住んで、楽しい、住みやすいまちにして行かなければいけないと思っている。そういう部分では自然も残っているし、海もあるし、工業地帯もあるし、大学もあるし、非常にアプローチがしやすいのが金沢区だと思うので、ここに住んでもらえるようにするにはどうしたらいいか、人口を増やすにはどうしたらいいか、タワーマンションを建てるのも面白いかもしれないとか、そういうものはあると思う。そこが一番重要なんじゃないか。人が住みたいと思う魅力の街にすることが、金沢区がいま一番にしなければならないことだと思う。

谷田部議員：小学校、中学校の避難所の暑さ対策や、避難所だけではなく、いろいろなスポーツをやる中で、地域を回っていると小学校・中学校の体育館の空調整備の要望が出てくるが、実態はどうなっているのか。中学校が10校あって、何校整備して、何年かけて整備するとか、金沢区で何か予定があれば聞きたい。

小柳総務課長：区内の全小学校で、空調が整備されているのは釜利谷東小学校、西富岡小学校、小田小学校で、残りは未定と教育委員会から聞いている。

谷田部議員： 中学校はどうなっているか。

小柳総務課長： 中学校は手元に情報が無いので、後程調べてお伝えしたい。(同日メールで回答。空調が整備されている中学校は富岡中学校のみ)

谷田部議員： この暑い中、ソフトボールとか少年野球とか開会式等々もあったが、やはり暑さ対策ということで休憩を取ったりいろいろやっている。体育館の中もかなり暑くなっている。何年計画でどのようになるのか、教育委員会に聞いても、そのうちそのうちで、1年2年3年過ぎるという感じがする。去年や今年の夏は、暑さ対策をしないと厳しいと思う。高橋先生の本会議での質問でどういう答弁が出るか楽しみにしている。

次に、先日、金沢漁港の汐祭にお伺いした。金沢区には小柴漁港、海の公園、金沢漁港がある。区づくり推進費の中にカーボンニュートラル関係のブルーカーボンの取組はあるのか。

木村区政推進課長：ブルーカーボンについては、局と一緒にグリーンキッズという取組を行っている。ワカメを植えたりそれを取ったりとか、海洋学習などを行ったりというような取組みを行っている。

谷田部議員：ブルーカーボンの取組みを行っているというお話だが、具体的にはどんな取組みか。

また、小柴自然公園について、暑さ対策もそうだが、使ってみて使い勝手が悪いという部分がある。例えば駐車場の問題とか、駐車場から運動場まで遠くて資機材を運ぶのが大変だとか、トンボとか石灰とかを常駐で置かせて欲しいなどの話がある。これはみどり環境局とも連携しないとけないと思う。我々も要望書を結構出しているが、その辺の対応はどうなっているのか伺いたい。

木村区政推進課長：ブルーカーボンの取組は、令和6年8月19日に八景島で開催され、合計35名の小中学生が参加している。うみファームというところで東京湾内に生息する生き物の観察やブルーカーボンの重要性について八景島スタッフからレクチャーを受けるなど、海の生き物を身近に感じてもらうイベントを行っている。金沢区の大きな資源である海を活用

したブルーカーボンに関する活動は重要な取組であり、今後も脱炭素・GREEN×EXPO 推進局や、地域で活躍している団体と連携しながら、ブルーカーボンの取組について検討していきたい。

黒川議員：区民や大学の活力を生かした地域支援事業について、予算に対して決算が非常に低いということだが、執行残が多いのは何か理由があるのか。

渡邊地域推進担当課長：区民や大学の活力を生かした地域支援事業の5年度は、決算額472万5,000円に対して215万7,000円の不用額が生じている。主な理由は、金沢区空き家等を活用した地域の「茶の間」支援事業で、新規にコミュニティーサロンなどの開設に150万円の補助金の予算を計上したが5年度は申請が無かった。またキャンパスタウン金沢サポート事業補助金について、申請交付件数が前年の令和4年度が9件に対して5年度は6件と減少したため予算額と交付金額との間に差が生じたため不用が生じた。

黒川議員：金沢区は地域活動がとても盛んな区だと思う。空き家等を活用した茶の間事業だとか、コミュニティーサロンだとか、多世代交流拠点だとか、いろいろなところがある。たまたま申請が無いからお金は出しませんということではなく、もう少し区役所の方からも、こういうことだったらお金を出せるとか、こういう活動に対してはお金を出せるからこういう活動をやってみたらとか、他のサロンなどの成功事例などを上手にやらないようなところに提案するなどしてあげてほしい。お金が足りないとか、運営が難しい、経済的に難しいという話はよく聞くが、それなのに200万円以上のお金を余らせているのはもったいないと思う。御用聞きというわけではないがそれぐらいの気持ちで地域の皆さんに対して区役所の方からアプローチしてもらいたい。せっかく確保した予算だから、申請がないからその分浮いたということではなく、申請が無かったから浮いたお金を使ってこういうこともできる、ああいうこともできるということと同じ地域支援という枠の中で使う分にはおかしくないと思う。そういう形でもう少し積極的に地域に対して働きかけをしてもらえたらありがたい。そのあたり区長からコメントをいただきたい。

齋藤区長: 決算状況をまとめる中で、区でもそういう話はしており、私からも、これは非常にもったいないと所管に話をした。例えばどのような補助金があって使えそうだとか、うまく行っているところの事例を勉強するような講座とか、何か次に繋がるような予算の使い方を検討していこうという議論もしている。確保した予算は、生きたお金となるように考えていきたい。

黒川議員: せっかく予算を取っているわけであり、執行残の無いようにしていただきたい。

先程来、中学校で防災教育とか、補助教材を使った活用促進というような事業や、小学生向けの事業もいろいろとやっているということだが、前回も少しお話したが、横浜市こども・子育て基本条例を議員提案で作った。子どもの意見を尊重しようとか、子どもの意見を政策に反映させようというようなことが趣旨としてうたわれていますので、ぜひ、一方的に子ども向けに教えるとか伝えるということだけではなく、子どもの方からも、特に中学生くらいだといろいろな意見が出てくると思うが、そういう意見を吸い上げて、それを実現させてあげるということで、学生たちも自分の意見が通ったとか自分の意見を区役所が聞いてやってくれたとか、そういうことがまた励みに繋がるのではないかと思う。そんなことに繋がるような活動をしたと思うが、何かこういう提案があって、こういうことをやったら子どもたちが喜んでくれたとか、そのような実例があったら教えてほしい。

小柳総務課長: PDF版資料の18ページを御覧いただきたい。防災の取り組みだが、若い世代へ向けた防災教育の推進ということで、今年度は小学生向けのものを9月に1回、中学生向けのものも、すでに終わっているものも含めて6回実施している。前回いただいた先生方からのアドバイスも踏まえて、受講した生徒さんにアンケートを取る。アンケート内容は、小学生のアンケートではあまり難しいことは聞けないが、授業の感想、4段階でよかったとか若干分りにくかったとかをまず聞こうと思う。また、小学生や中学生への働きかけの効果のひとつに、家庭でこの話をしてもらおうと、より地域への取組が広がると思っている。授業の中で、今日学んだことを家庭で話してほしいと呼びかけ、後日アンケートとして今回の授業のことを家の人に話したかをアンケートとして取っていく。今後、集計の中

で広がりがどれだけできているのか確認していきたい。また中学生向けも、8月27日、8月29日以降にアンケートを取り始めた。例えば授業の中で何が印象に残ったかとか、この授業を学ぶ上でもっと知りたいことはあるかとか、例えば地震体験者の話を聞きたいとか、動画を使った学びをやりたいとか、みんなで話し合う時間がほしいとか、いくつか選択肢を選んでもらう形の質問と、自由記載で防災についてもっと知りたいことは何かということをアンケートで聞いている。今回は初めての試みで、集計はまだ上がってきていないが、結果は今後の防災教育にぜひ取り入れていきたいと考えている。

黒川議員： なんとなく選択式で質問をするとそこに丸を付ければいいのかなぐらいな感じで終わりますので、ぜひ、子どもたちからきちんと意見を聞いて、それを反映させるようなことが良いと思う。横浜子ども会議を視察させてもらったが、中区の会議を聞かせてもらって、金沢区は中止になったので行けなかったが、子どもたちが金太郎飴のように、みんなSDGs、SDGsと言う。なぜなのかなと思っていたら、授業の受け売りって言うところちょっと子どもたちに失礼かもしれないが、もう少し何か子どもたちの独自の個性や子どもらしい発想でいろんな意見や建設的な意見がもらえるように、ぜひそういう工夫をしていただけたらと思う。

次に、居住促進プロモーション、この京急の中吊りだが、やはり金沢区にとってのライバルは、横須賀であり三浦であり、東京だったら京浜急行沿線の蒲田とか大田区とか青物横丁だったり、あとは横浜の中であまり争ってもいけないが、鶴見とか磯子から引っ越してもらえたらそれもなお良しという感じだと思う。ターゲットを絞って、横須賀じゃなくて金沢区にある魅力ってなんだろうとか、東京の大田区じゃなくて横浜の金沢区にある魅力ってなんだろうとか、そういうところを少し掘り下げて、そういう人たちが金沢区っていいなと、京浜急行に乗って中吊りを見て、今度金沢区に行ってみようかとか、そこから金沢区を引っ越し先の候補にしてみようかとかに繋がると思う。そういった形で、戦略的にターゲットを絞って、敵をまず知るということが大事だと思うが、そういう中での取組があれば教えていただきたい。

木村区政推進課長： 金沢区の魅力は、本当にオリジナルなものと思っている。区の中でも金沢区の魅力はなんだろうと話している。横浜市より南に

行けば自然が多くすごく魅力がある街もあるが、金沢区はそれに加えて施設やアミューズメントなど、子育てにやさしい環境が一つのところにギュッとまとまっているところも含めて訴求していければという話をしている。居住促進プロモーションの車両は、京浜急行との連携関係の中で、京急が2台持っているブルースカイトレイン、青い特別塗装の車両を使って京急沿線だけではなく都営浅草線も含めてさらに遠くまで攻めていける電車と聞いており、そういったところも含めて戦略的に引き続き実施していきたい。

黒川議員：ぜひ、しっかり戦う気持ちでやっていただきたいと思う。以前に埼玉県戸田市のホームページを見たことがあるが、子育て支援にもものすごく力を入れている市で、ターゲットは板橋区からいかに引っ張ってくるか、東京という名前がつかないだけで、これだけ子育て支援の政策が違うということを書きながら、子育て世代をいかに引っ張ってくるかを思い切り打ち出しているのを見たこともある。そんなことも参考に、ぜひ金沢区に他のまちから引っ越してきたいなと思ってもらえるような、そんなプロモーションをしていただきたい。

令和7年度 金沢区予算編成の考え方について

高橋議員：先ほど予算が執行できず執行残となったということだった。私は議員になって14年経つが、ずっと市民活動をやっていて、防災まちづくりで地域の協議会の代表や、子育ての拠点の立ち上げをやっていて、そういうときに職員の方が生き生きしていた。本当に皆さんが楽しくやっていて、まちづくりで結構激しく喧々諤々と議論をしたりして、非常に良い思い出である。ただ、今の市役所や区役所をみていると職員の皆さんはあまり元気がないというか、上に怖い人がいるから口に出せないのかとか思っている。区長のことではない。まち普請事業は職員の声から生まれた事業で、それを考えた方から「これ僕が考えた事業ですよ」と聞いたことがある。職員の方々がやってみたいなという事業を、挑戦するチャンスをぜひ作ってほしいと思う。個性ある区づくり推進費は全国でも横浜が1億円で一番である。大阪でも5千万円である。予算が倍以上あるこの横浜で、多少失敗してもいいかなと思う。本当に挑戦して良くなるような、楽しいワクワクする事業を期待している。

齋藤区長: 区役所が進めるサービス向上のところだが、私も若いときにいろいろやらせてもらった経験がある。特に区役所は、市民の方と直接接する最前線で、ダイレクトに結果が出てくる、すごくやりがいがある職場だ、と着任の時に若い職員に話した。決定的なミスでなければ多少の失敗は大らかに、特に若い職員にいろいろな経験をさせてあげたいと思うし、アイデアを生かすように責任職には言っている。どんな予算編成していくか、私も楽しみにしている。

高橋議員: 5年前とこの2年間だと、20代30代が倍以上退職している。実はこの数字は本当に大きな危機感だと思っている。20年後にその世代の管理職がいなくなるわけですからぜひ頑張ってください。

黒川議員: やはり今、人口が減ってきている中で、居住促進が大事になってくると思う。住みたい住みたいまちづくりというのは、今いる人たちが住み続けるとか、今いる人たちが住みたい部分と、やはり引っ越してきてもらいたい部分について、戦略的なガツガツしたところがもう少し見えてくるといいと思っている。特に金沢区は、釜利谷とか富岡西とか、一戸建ての住宅にどんどん空きが出ている。並木のマンモス団地も賃貸を中心になかなか埋まってこない。そこに人が入ってくればこの問題はかなり解決すると思う。どうやってそこに人を引っ張ってくるかというような戦略をしっかりと考えてもらいたい。金沢区でそれが成功すれば他の区でもこれから同じような状況が起こってくる中で大きな成功モデルになる。重点的な戦略として、訪れたい、住みたい、住み続けたいまち金沢に引っ越してもらえるようにするためにはどうしたらいいかという戦略をもう少し出してもらえたらありがたい。

齋藤区長: 金沢区は一番人口が減少していく区ということで4月に大きく新聞にも出た。私はこの区のポテンシャルはすごく高いと思っている。ただ、東京から物理的に距離があることの難しさはある。いろいろなデータを見ながら、プロモーションのどこをターゲットにしていくのか、今どこに住んでいる人、今までどこから来て、どこに行ってしまったかというデータはあるので、そこをもう少し分析して、可能性のないところからよりも可能性の高いところを集中的にやるとか、何が最後の決め手とな

	<p>って金沢区に引っ越してきたか、あるいはどういうことを考えて引っ越し先を検討したのかということ进行调查していくことが必要だ。金沢区は生活するのにとても便利で、治安も非常にいいエリア、子どもを育てるには環境に恵まれているということで、積極的に売りとしてPRしていきたい。売っていききたいところとか、相手方がどこを見て住むところを選んでいるのかそこはきちんと見極めたいと思っている。今回のプロモーション事業をやっていく上で、初の試みということもあり、京浜急行と、金沢区に住んでいる金沢区の魅力を知っている方にデザインに関わっていただくことにしている。イメージが変わったかどうかを効果検証していかなければいけないので、限られた予算を本当に効果的に使えるように、7年度に向けてしっかり取り組んでいきたい。</p> <p>ただ日本全体で人口減少しており、自治体の子育て支援合戦でとり合いの状態になっている。人口を増やしていくためには横浜だけ頑張ってもいけない、取り合いだけをしてはいけないと思っている。そもそも結婚する方が減っていると全国的な調査からもはっきりしていて、男性の生涯未婚率がぐっと伸びているトレンドがある。特に女性が結婚を選択しない割合も高まっている。結婚して子どもを持つイメージが持てていないこともあり、それを阻害する要因も含めてトータルで進めていく必要があると思っている。金沢区の重要なテーマの一つと思っているので、しっかりとやっていきたい。</p>
<p>備 考</p>	